

JSCA 勉強会

この講演は、2015年11月19日 東京・巣鴨での協会代表の賀来史同氏によるものです。

演題は「カイロプラクティック哲学と道（どう）」です。

番号は使用したスライドの順番を示しており、ここではスライドは省略してあります。



1. 本日も遠方よりお集まりいただきましてありがとうございます。

今日はカイロプラクティックの哲学についてお話ししたいと思います。

2. 哲学は「教育された脳」を通して、自分の人生において、より良い選択をするための指針となるものであり、これはカイロプラクティックにおいてアジャストメントを提供する側、アジャストメントを受ける側、双方にとって健康を第一に考えた時に必要不可欠なものといえます。

3. 日常生活の中で、ほとんどの患者さんは、「症状・病名」を優先した人生を歩んでいると言えます。それはそういうものを優先するような考え方が自分の人生の根底にあるからです。これは医療をベースにしたもので、これが普通の考え方、4. 一般的な常識として社会に根付いているため、殆どの患者さんは疑問を持たずに病気や症状緩和のための治療に専念しているのです。カイロプラクティックの考え方は「症状・病名」を重視する訳ではありませんので、「症状・病名」優先の考え方から脱却するには赤ちゃんのように常識にとらわれない、超常識を目指さないとはいけません。5. 超常識は非常識ではなく普遍的な価値を含む自然優先の考え方で未来永劫の普遍を意味します。一般常識は、その時代に於いてその場に対処する一過性の方法で、根本原因を解決することなく、問題は延々と続いて誰かが、それに疑問を唱えて、周りがそれに気づいて同調するまでは何も変わる

ことはありません。

6. 私たちが初回時に相手にしている患者さんの多くは、一般常識としての医療の考え方を持った患者さんですので、我々は、その常識を変えるほどの結果をアジャストメントで出していると自負していても、医療との技術的対応の違いに患者さんにとっては「不思議ですね!」「先生のパワーはすごい!」「変わった治療法」といったことで終わってしまい、患者さんの感動はどうしても「症状からの解放」の喜びに留まっているのが現状です。この現状を打破するために高橋先生も私も啓蒙の本を出版したり、また皆さんも日々、患者説明の努力をされているわけですが、それでもまだ「カイロプラクティックは上部頸椎」という決定打には至っていません。上部頸椎カイロプラクティックができることは、医療では決して診ることのない上部頸椎のサブラクセーションの存在と、そのアジャストメント（調整）です。このサブラクセーションが脊柱内で自然治癒の働きを妨害している物理的根本原因となっているということに患者さんの気持ちが向かない、気づいてくれないということです。

※サブラクセーションとは、脊柱を構成する椎骨が正常な位置からずれて神経を圧迫し、脳からの神経伝達を妨害している状態。身体の機能は、医療機関ではなく自らの脳によって神経系を通して身体の調整、維持管理を行なっているため、脳からの神経伝達妨害は全身に働く自然治癒力の働きを妨害することになります。

7. 患者さんの思考を上部頸椎カイロプラクティックの常識に変えるのはこれから大変だと思います。ですから、上部頸椎カイロプラクティックは、このまま目立つことなく本当の意味で社会の健康を支える縁の下の力持ち的存在として自然指向の患者さんの支持を得ながら未来に向かって進んで行くものと思います。私たちがやっていることは決して間違っていないのですが、一般常識とは余りにもかけ離れていますので、私たちの常識に社会の常識が近づいてくるにはまだまだ時間がかかると思います。私も1980年に開業して今日までまだ35年の臨床経験しかありませんが、上部頸椎カイロプラクティックを実践する先生方が年々増えてきているということは、嬉しいことでもあり、少しずつ社会に浸透して行っているように思います。ただ「症状をとる」ための手段として浸透して行くのでは困りますので、浸透させるにはやはりカイロプラクティックの哲学、カイロプラクティックの考え方を浸透させて、「症状のことで頭がいっぱい」の患者さんを「幸せいっぱい」の患者さんにして行ってもらいたいと思います。そのためには、やはりカイロプラクティックの哲学を言い続け、実践し、次の世代に継承して行かなければなりません。それが上部頸椎カイロプラクティックの伝統を守ることだと言えます。

そういう訳で、今日はカイロプラクティックの哲学について話をしたいと思います。哲学というのは、私たちが生きている間に確信する、納得させうる根拠を追究する学問だと思います。カイロプラクティックの哲学にはこの要素が含まれていますので、カイロプラクティックの哲学を学ぶ、**Specific Chiropractic**（上部頸椎カイロプラクティック）を実践するということは迷いのない人生を送ることができると言えます。

8. 信念のある人は哲学を持っています。哲学があると周りの動向を気にすることもなく、誘惑にも負けることはありません。人生は選択の連続です。何を選択し、何を捨てるか。自分の人生は自分で決めるしかありません。人に相談することなく自分自身でどうするかを決定するためには、何があっても自分の思いを貫徹させるための哲学が必要となります。カイロプラクティックの哲学は人生の指針となりうるすばらしい教えなのです。9.それが33の根本原理に凝縮されています。

33の根本原理に関しては、スクールで講義をしましたし、セミナーでも取り上げました。皆さんもその後も当然自習・復習されておられると思います。哲学といっても西洋哲学、東洋哲学といわれるように広範囲に及ぶものです。10.カイロプラクティックの哲学は、西洋哲学や東洋哲学とは違い、宇宙と人間、宇宙の法則とその法則によって生かされている人間、法則の作用経路である神経系と、それを保護する脊柱との関係、そして人間の思考によって身体の内部で起こる不調和の関係を理路整然と解説したものです。

11.この哲学の分かり易さは33の根本原理に現れています。哲学は物事の本質、物事の核心に触れることです。カイロプラクティック哲学の33の根本原理で、一番目に大前提を持ってきたところが、この哲学のすばらしいところです。これは、演繹法として知られています。

この「宇宙の叡智はすべての物質の中に存在しており、それはすべての物質に特性と活動を与え続けている。したがって、現存する物体を維持しているのである。」これは、すべての中に生命があるということです。

これはアメリカ的というより、東洋的、日本的です。12.日本の古事記に出て来る八百万（やおよろず）の神などは人間を含む自然界の動植物すべてに神が宿っているという考え方ですから、この神をイネイトに置き換えれば同じ意味になります。大きな違いは、人間が創造、命名した多くの神々ではなく、いかなる神であっても根源はこの宇宙の叡智であるという大前提に基づいていることです。

※イネイト Innate Intelligence とは、教育された脳（教育脳）Educated Brain と違い、生まれた瞬間から先天的に身につけている内在の叡智、生得の叡智、先天的知能のことをいいます。様々な表現の仕方がありますが、宗教的には内在の神といえるでしょう。

13.この前提が正しいと言えるのは、「すべての物質に特性と活動を与え続けている」という点です。特性と活動とは、身体の内部で起こる運動、知覚、熱発生、再生、消化、吸収、排泄、同化、生殖です。これによって生命を維持できる訳ですから「生と死」はこの宇宙の叡智によって決定づけられるということが分かりますし、また生命活動はこの叡智によって可能となりますので、この叡智の働きに妨害が起こると当然そこには生命活動に不調和が起こることになります。この不調和の結果が、様々な病気や症状として現れてくるわけです。14.ですから、この不調和の原因である生命力の伝達妨害（サブラクセーション）を取り除くことが私達の使命となります。この妨害には椎骨の変位という物理的な側面と、生きている人間の教育された脳による妨害が存在します。

「教育された脳」による妨害は、その人の生き方に左右されますので、その人の生き方が変わらない限り、それによる不具合は続くことになります。例えば、15. 食べて寝て、を繰り返していると、身体が重くなったり、胃の調子が悪くなったりなど、それこそ生活習慣病になるでしょう。これは原因と結果です。その人の生き方は、その人の人生観や価値観に左右されます。16. 私たちが、取り扱うのは椎骨の変位による物理的側面です。教育された脳は、サブラクセーションのアジャストメントで劇的に改善する場合もあるし、されない場合もあります。17. なぜなら人間の教育による執着心が自らの心身の乱れを作るからです。薬にこだわっている人、お金にこだわっている、病名にこだわっている人など、そのこだわりの思いが深いほど、サブラクセーションが消えても執着心を生む思考が宇宙の法則と適合しない時には、それによる不調は改善することはありません。18. 宇宙の叡智にとって重要なことは、宇宙の叡智の思いに人間の思考を同調させて生きて行けるかどうかなのです。

19. 宇宙の叡智の思いをどうして知るかと言いますと、自然界での現象から読み取る意味や科学的に証明される事象です。例えば、気象予報士なども自然界の現象を科学的に説明していることになります。それでも100%はありません。自然を100%読むということは不可能なのです。なぜなら常に変化しているからです。人間が100%イネイトと同等とならないのはそのためです。20. 自分にとって薬やお金、病名、名誉や地位などは死を境に価値のないものとなってしまいます。生きているときも死んだ後も価値あるものこそが普遍的価値を有するものであり、日常生活で重視しなければならないことなのです。このような判断を下す知識を持って人生の選択をし、より良い人生を構築して行くことを哲学するということだと言えます。

本来、病名、お金、名誉や地位などなくても生きて行けます。人間の欲、執着心が楽に生きて行けないようにしているだけなのです。この欲が人間の教育された脳によるものなのです。サブラクセーションは、消えてもこの欲が自分自身を苦しめるのです。薬のない時代や、お金のない時代にも人々は生きていました。今でも裕福な人もそうでない人も、病気の人やそうでない人も、ホームレスの人であっても、なくても生きています。病気に関して言えば、平成の時代になったから死ななくて済むということはありません。病名や薬の名称が何であれ、人間は生まれ、死んで行くのです。生から死に至る過程には、常に自然の法則が関与しているのです。カイロプラクティックは、人間の教育によって得た医学知識による治療よりも、この身体に備わった自然の法則（イネイト、自然治癒力）による働きを重視するのです。なぜならこの法則は人体の神経系を通して働いているからです。人間の教育による自然から逸脱した思考と椎骨のズレによる脳からの神経伝達妨害が身体の不調を作り出し、またその治癒を困難にしているのです。

21. 哲学とは英語で Philosophy と言いますが、語源はギリシア語の philosophia で、これは叡智を愛するという意味です。上智大学は英語名ではソフィア大学(Sophia University)と呼ばれています。高い叡智ということで上智としたそうです。素晴らしい校名です。22. 人智は宇宙の叡智

に勝ることはありませんが、自然を師として宇宙の叡智の働きを知ることができます。人の生と死、人間（脊柱）の生理的湾曲、重力あるいは引力それによる潮の満ち引き、地球の公転周期や軌道などは人間が決定したものではなく、この宇宙の叡智によって考案、計画されたものです。これは宇宙の叡智による変更が無い限り変わることはありません。23. 人間社会には法律というものがあります。人間社会の法律は、教育脳で作成されたものです。ですから完璧ではありません。しかし、宇宙の叡智と直結したイネイトは完璧です。身体に関しての決まり事はイネイトによってコントロールされています。この決まり事が宇宙の法則、自然の法則です。重複しますが、身体はこの法則に従って神経系を通して機能しているのです。決して医師やカイロプラクターの指示で身体が機能する訳ではないのです。人間の教育脳、思いもこの神経系を通して自然の法則と同時に作用します。サブラクセーションは物理的妨害ですが、イネイトの要望（思い、意思）に反した人間の教育脳による思考も身体の不調をもたらします。

24. 患者さんに接していて、薬を飲んでいる人の多くは、止めるのを躊躇しますし、必ず次の言葉を口にします。「今かかっている内科の先生に相談してから決めます」、これもその患者さんの生き方を示す一つの例です。薬を飲む、飲まない、を決めるのは本来自分自身であるべきです。

※薬を止めなさいと言っている訳ではありません。薬は日常生活に支障があり、生死を分ける重篤な場合には必要となります。

西洋医学では最新医療機器によってかなり詳細に身体の内部状況が分かるようになりましたが、それはあくまでも部分的です。カイロプラクティックは、部分的にも全体的にもどれだけ病状が進行しているかはサブラクセーションを通して判断することは不可能です。これは医療機器を使用する医療現場でも同じです。人間のやることですから100%はあり得ません。それでも患者さんの中には、人（医師）の方が自然より勝っていると勘違いしている人が多いため、先生に「治してもらおう」と、考えるのです。

25. カイロプラクティックの自然観を理解している患者さんは、「上部頸椎カイロプラクティックで“神経伝達妨害”をとってもらおう。後は自分でなんとかしよう」と考えます。あとは自分でなんとかしようという点が、「生活習慣の改善」にあたります。ですから上部頸椎カイロプラクティックでは、「アジャストメントを受けたら、後は自分自身で生活習慣を改善して下さい」と、伝えるのです。この生活習慣の中に特に「薬の長期服用、運動不足」があげられます。生活習慣を変えるためには先に言いましたように「生き方を変える」しかありません。生き方を変えるには「考え方を変える」しかないのです。この考え方の根底を支えるのが哲学なのです。なぜ？なぜ？と問い詰め、なぜなら、という答えを自分で見つけて行く。その答えが、自分以外の人にとっても人の健康に貢献できる答えであれば、それによって確信が生まれ、迷いがなくなり、納得いくものとなっていきます。

現代人は、余りにも人や物に依存しているといえます。人と協力するのは良いことですが、人に振り回されたりして、自分の人生の中の貴重な時間を無駄に過ごすことは良いことではありません。

人に相談する前に、もっと自分の人生を一人になって考えることです。そして自分なりの答えを出すことです。人の意見を聞いたり、相談するのはそれからでも遅くはありません。

26. 哲学するとは「自分の人生の中で、未来に向かって確信と希望を持って歩むために思考すること」だと私は思います。

27. 最後に、日本の文化には茶道、華道、書道、柔道、空手道、合気道、剣道、弓道、古武道など「道」が付いています。これは日本語読みでは「どう」と呼んでいますが、世界的には「タオ」として知られています。これは人間が自然に生きて行くための基本的な考え方を老子が説いた宇宙の根本原理を意味する哲学で、これらも中国の道教や儒教、そして仏教などを通して日本文化に受け込んだものです。ですから同じ自然の法則を説くカイロプラクティックの哲学は、我々日本人には非常に理解しやすいものとなっています。

28. 良くみて頂きますと、この道（どう）は「首（くび）」と「しんによう」の部首から構成されています。首（くび）には始まり、起こりなどの意味があり、29. 「しんによう」には、終わりとか、前に進むなどの意味があります。終わりというのは最終ではなく「次に続く」終わりです。つまり宇宙の始まりと終わり、そしてまた始まるという循環を表しています。30. 表現を変えれば運慶の金剛力士像（仁王像）や31. 「阿吽の獅子」などで知られるサンスクリット語の「あ」「うん」です。「阿（あ）」が始まりで「吽（うん）」が終わりを意味します。「あ」というのは、人間が最初に行なう呼吸（口を開く）で、生を意味し「ん」は、口を閉じる時に発する音で、死を意味します。日本のひらがなも「ア」から始まり「ン」で終わります。これは宇宙の法則である「生と死」始まりと終わりを意味します。

つまり「道」を追求するとは、生きている間に様々な行為を通して「宇宙の法則」「自然の法則」を追求することになります。この法則を追求することにより人間としてどうあるべきかが自分の中で理解され、整理され、確立されて行く訳です。

32. まとめれば「道」とは「首」が示すように生かされている人間が、初心を忘れることなく、「しんによう」が意味する「前にむかって進む」、つまり「初心を貫く」ことだと言えます。私は62歳から空手を始め今65歳です。体力を維持し、老後も現在のスピードを維持して生涯現役で仕事を続けて行こうという強い思いで始めました。はっきり言いまして、稽古は辛いですが、これを始めた動機を忘れることなく、稽古に励み、稽古を通して宇宙の法則を体得して、それを社会の中で活かして行けるようにこれからも精進するつもりでいます。

私は道場には通っていますが、道場も「道の間」と書きます。つまり本当の道場の意味は「宇宙の法則、自然の法則を学ぶ、会得するための場所」といえます。

私は、「道（どう）」に通じるカイロプラクティック哲学を学んでいても、まだまだそれを十分に活かし切っていないのを自覚していますので、もっと、もっと哲学しなければ、と思っています。

33. カイロプラクティックは単にカイロプラクティックです。私たちが行なっているスペシフィック・カイロプラクティック（上部頸椎カイロプラクティック）は、『首くび』専門の哲学を臨床の基盤としたカイロプラクティック「道」なのです。物事の起こりを示す『首』こそ身体における物事の始まりの根源であり『根本原因』となりうるのです。赤ちゃんも首の座りで発育の善し悪しが決まります。つまり上部頸椎のサブラクセーションがあるかないかで自然治癒の善し悪しが決まるのです。それだけ首は全身という健康に常に関わる、最も重視しなければならない部位なのです。だから上部頸椎カイロプラクティックは、あれやこれや（様々な治療法）、あっちこっち（色々な部位）の治療ではなく、上部頸椎一か所をアジャストメントするのです。後はすべてイネイトが自然の法則に従って（全身の診断・治療を）やってくれるのです。上部頸椎カイロプラクティックは、考え方も方法も非常にシンプルです。医療に依存している患者さんにとっては「上部頸椎カイロプラクティック」のすべてが不安や不満を与えることになることは理解できます。私たちにとっては医療行為という一般常識に囚われない、自分自身の身体に先天的に備わった能力による自然治癒を望む患者さんが増えることを祈るしかありません。人間のやることは「最小限」にし、自然治癒力に「最大限」の行為を託すことがカイロプラクティック哲学を臨床に活かす唯一の方法です。それを実践しているのが上部頸椎（専門）カイロプラクティックなのです。

カイロプラクティックの哲学は、未来の人類の健康を支える礎となるでしょう。B. J. Palmer の言葉にもありますが、34. **Get the Big idea, All else follows.** 志を持ってスペシフィック・カイロプラクティックを実践しましょう。後はイネイトの基にすべてついてくるでしょう。

これで私の哲学の講義を終わります。

ご清聴有り難うございました。